

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

みんなで作る、みんなの学校 — 瑛玖良校

校長 澁谷 一男

「子どもたちの笑顔を思い浮かべながら雪をかけ！」

先月の半ば、大雪で埋まった学校周辺の歩道を市の職員の方々が除雪してくださった。安全な通学路を確保するため、担当課を問わず、市内小中学校周辺の除雪に当たってくださったとのことだった。その際、あるグループのリーダーと思しき方が、同じチームの職員を、冒頭のような言葉で鼓舞していたという。



新しい学校目標に関する記述の3回目は、「みんなで作る」である。ここでいう「みんな」とは、子どもたち・保護者・地域住民・教職員・ゲストティーチャーなど、猿橋小学校に関わる全ての人を指す。「みんなで作る、みんなの学校」、それが、新たに目指す「瑛玖良校」だ。

実は、これには基になったモデルがある。大阪市立大空小学校の初代校長 木村泰子氏の学校づくりだ。木村氏は言う。「子どもたちが、社会で生きてはたらくための力を獲得するには、学校は、将来子どもたちが実際の社会に出て行く前に、たくさん失敗し、やり直しができる小さな社会でなくてはならない。そのため、大空小学校が開校時にこだわったのは、そこに携わる教職員はもちろん、そこに通う子どもたち、さらには保護者や地域の方一人一人が、自分たちの地域の学校を一緒につくっているという意識を共有することだった。」

さらに、木村氏は、「いつかその場を去らなければならない教職員は『風の存在』に過ぎない。一方で、その地域に根を張り、常に子どもたちを見つめることができる地域の人たちは『土の存在』と言える。そうした人たちが、学校の中にまでしっかりと根を張り巡らせてくれさえすれば、私たち『風』は、その肥沃な土壌にたくさんの種を運んで蒔くことができる。」と地域と一体となった学校づくりの大切さを説く。

猿橋小学校でも多くの保護者や地域住民の皆様から、日常的に子どもたちの支援をしていただいている。2年前に立ち上げた「瑛玖良ボランティア」を、今年度から「瑛玖良サポーター」と名称を変更した。学校に関わってくださる全ての方から「サポーター＝応援団」となっていたきたいという願いからである。これからも「自分の子どもが学ぶ学校」、「地域の宝が学ぶ学校」のサポーターとなって、「みんなで作る学校」に参画していただければ幸いである。

大雪の朝、横断旗を持って通学路まで出てくださる方、交差点の雪の壁を崩してくださる方など、市役所の方々以外にも、多くの皆様が子どもたちを見守ってくださっていた。こうしたサポーターの皆様のお陰で、かけがえのない子どもたちの笑顔が守られている。